

特活) 歯科医学教育国際支援機構ニュースレター 2025年4月号

ラオス・デンタル・ハイジニスト・コースの教員養成の座学が終了し、僻地医療の実習が開始されました。

2024年3月から5回に亘って行われた宮田理事長を中心とするデンタル・ハイジニスト・コースを担う教員養成の集中講義の座学が終了し、2025年3月からいよいよ教育実習が開始された。ターゲットであるビエンチャン県内のヘルス・センターにおいて、まず、僻地医療に必要な歯科に関する検診実習が行われた。必要な項目は「僻地」というカテゴリーにその地域がどの程度含まれるか、という事実の検証である。その結果に基づき我々が分類した「僻地のクラス」に従って、特に歯科領域における「僻地(歯科)医療の活動を設定する」という方法論を実習にて習得するのを目的としている。ターゲットとなったヘルス・センターは Som Boone ヘルス・センター、Kao Kou ヘルス・センターなど3か所である。実際に近隣の住民を対象に必要な問診、検査などを実施し、その結果から、その地域に適応した予防教育、予防処置、必要な歯科医療の具体的な治療方法、資機材の調達まで受講生が自分で立案できるまで実習を介して教育するのが本プロジェクトである。



ラオスのいわゆる僻地は電気網が整備されているだけ、我々が今まで関わってきたカンボジアや東ティモールなどと比べ多少ましな部分もありますが、やはり感染症や蛇咬症、毒虫など疾患はいまだに深刻です。また、う蝕、歯周病の蔓延は留まる事はありません。



金属回収事業にご協力をお願いします。

歯科金属・材料の高騰で日本の歯科医療が危機に瀕していることはご存知の通りですが、その影響で皆様からの金属の寄付が低迷しています。その実情を同じ歯科医師として理解できるだけに、回収金属の寄付をお願いするのは大変心苦しいところですが、些少でも結構ですのでご寄付頂けたらありがたく存じます。